




# 政務活動報告書

令和4年9月15日

[会派名： 喜働 ]

代表者氏名	川合 滋 	記録者氏名	足立 淑絵 
活動者氏名	足立 淑絵		
活動日	令和4年7月25日(月)～令和4年7月25日(月)		
活動先	・三重県名張市鴻之台1-1 (コロナ患者増加中に伴い、資料・DVD提供となりました。)		
活動目的	・遠野市総合食育センター「ばすぼる」		



## ★多目的な給食施設 総合食育センターについて★

### ○遠野市の概要と多目的な施設の目的○

- ・農業を基幹産業とする人口3万人程度のコンパクト市である。
- ・学校給食、総合給食によるビジネス機会の創出や雇用創出による地域活性化を図るための施設がふさわしい。

### ○事業概要○

- ・学校給食施設と総合給食・地産地消施設の多目的施設である。
- ・ドライシステムで、オール電化
- ・学校給食：2,500食/日、総合給食：100食/日
- ・総事業費は、およそ13億円  
(学校給食は文部科学省、高齢者の給食は厚生労働省、地産地消は農林水産省、食育推進は消費者庁など、複数の省庁に担当が分散されるため、財源の検討が大きな課題だった。)
- ・総合食育センターの整備目的にあった財源を検討した結果、国土交通省の社会資本整備総合交付金(当時はまちづくり交付金)を活用。
  - ①社会資本整備総合交付金：約4億円
  - ②過疎債：約8億円
  - ③市単独債：約1億円

### ○施設の機能○

- ①学校給食機能【安全で安心な学校給食の提供】
  - ・HACCP(ハサップ)方式による衛生管理システム
  - ・細菌の繁殖を抑えるドライシステム
  - ・食物アレルギー対応の実施
- ②食育推進機能【食を通じて健全な心と体を育む食育の推進】
  - ・2階に調理実習室と会議室を設置
- ③総合給食機能
  - ・学校給食とは完全に分離した調理ライン(総合給食室)を設置し、市の福祉事業である食の自立支援(配食サービス)を社会福祉協議会に委託して実施  
(月、水、金の週3回実施予定。45食/日)
  - ・平成29年6月から遠野市生きがい活動支援通所事業(サテライト)にも弁当を提供(市内9町に1日約20食提供)
- ④災害時の炊き出し機能
  - ・大規模災害時に、3日間(連続9時間稼働)利用可能な自家発電設備を設けて、電気、水道などのライフラインが復旧するまでの間、学校給食調理室内の炊飯設備を利用して炊き出しを行う機能を有する。

○学校給食について○

- ・供給食数：約2,500食/日
- ・受配校数：小学校12校、中学校4校
- ・米飯給食：週4回（パン週1回）
- ・食器：飯椀、汁椀、仕切り角皿（PEN樹脂製）、トレイ（FRP製）、箸は持参
- ・学校給食食材の地産地消率：令和3年度実績63.3%（重量ベース）  
うち「野菜39.8%」
- ・配送コース：5コース、配送車5台
- ・調理・配送業者：調理と配送を1つの事業者へ委託し、業務の効率化を図る。
- ・最近の契約内容：令和4年4月随契（継続）委託期間：1年、従業員数：36名  
（調理26名、配送10名）

○見学を始めとする食育推進について○

- ・システムキッチンを備えた調理実習室、研修ができる会議室、学校給食の調理の様子を見ることが出来る見学通路を設けて、食育や地産地消の拠点として機能する。

○宅配弁当等について○

(1) 高齢者の見守りを兼ねた宅配弁当の提供

- ・実施主体：遠野市社会福祉協議会（ボランティアグループほのぼの会）
- ・令和3年度実績：5,066食（週3日）
- ・利用登録者数：74名
- ・ボランティア数：ほのぼの会67名＋個人7名

(2) 生きがい活動支援通所事業（サテライト）に弁当を提供

- ・提供食数：3,733食（週5日、1日30食、市内8コース）
- ・市委託事業：遠野市生きがい活動支援通所事業

○防災機能について○

- ・東日本大震災を教訓に炊き出し機能を整備
- ・非常用発電機を整備し、学校給食センターで炊飯設備の利用が可能。  
（米250kg程度の炊飯が3回可能）



## ○総合食育推進課設置の効果・メリット○

### 《経緯》

- ・学校給食センターの老朽化に伴い、給食センターの改築が必要となった。
- ・進展する少子高齢化に対応する施設が必要
- ・福祉施設入居者の一人一人に合った給食が必要
- ・検討を重ねた結果、学校給食、一人暮らし老人への弁当提供、地産地消推進のための野菜加工設備の導入を考え、『総合食育推進課』を設置する。
- ・『構造改革特区』に認定を受けた。

### 《効果・メリット》

- ・教育・福祉・保健・農林など各分野で個別に行っていた食育推進の取組が、センターを拠点に一元化的に連携して推進できることとなった。
- ・小・中学生に対する食育としては学校給食との連携により、試食会を通して、「食育の推進」「地産地消の推進」も一層効果的なものになっている。

### 《課題》

- ・調理実習室兼会議室を市民の集う場として開放したいが、給食施設という衛生面の制約や市中心部から離れている立地条件から、食育推進の拠点として広く活用していけるかが課題である。

## ◎所感◎

新型コロナウイルスのBA5型感染者の増加に伴い、やむなく視察を諦め資料提供していただきました。資料と共にDVDで施設の様子も拝見でき、思っていた以上に分かりやすかったです。しかし資料を読み解く中で質問もいくつか思い浮かぶため、せめてZOOM対応があれば、もっと深く学べたように感じました。

余談ですが、以前、他市とZOOM視察を行い、今回は遠野市より資料・DVDの提供をいただきました。現地視察の必要なもの以外は、充分ZOOMで対応できることが体験できました。両市及び本市の事務局の皆様、大変お世話になりました。